

ご意見用紙

玄海原子力発電所に関する県民説明会

※この用紙は、記入後エントランスホールの回収箱にご投入ください。
 ※本日、回収箱への投入が難しい場合は、裏面記載の県内各地に設置しています県政提案箱にご投函いただくことも可能です。

* なお、ご記入の前に裏面の<お願い>をお読みください。

テーマ	★該当する項目をチェックしてください（複数選択可）。 <input checked="" type="checkbox"/> エネルギー政策に関する事 <input type="checkbox"/> 原子力安全対策に関する事 <input type="checkbox"/> 原子力災害対策に関する事 <input type="checkbox"/> その他
原発の再稼働に関する説明会の設定と運営について、先日(2月21日)の説明会で発言したかったこと。	
平日の夜の開催だけでなく、土曜・日曜の夜とか午前中とか午後とか、例えば唐津市で、問題点を分野ごとに整理して、最低3回程度、原子力規制委員会、内閣府、資源エネルギー庁、九州電力が、それぞれ独自に開催することを基本にして、実行の方法を検討してみてもいいか。	
原発の再稼働の問題は、原発(ここでは、原子力発電)についての総ての分野・問題に関わっているし、原子力規制委員会、内閣府、資源エネルギー庁、九州電力は、原発という共通の問題に関わっているけれども、それぞれ別々の特徴のある専門分野の仕事をしているのでから、それぞれ20~30分程度の説明、規制委員会は30分間の質疑応答、内閣府、資源エネルギー庁、九州電力は、それぞれ20分間の説明、質疑応答は合わせて30分間。これでは、原発問題の重大性、分野は広く多様多岐に亘る(巨る)ということ、ほとんど考慮していない企画であり、運営であったとしか考えられません。原発問題を甘く見ているとか、認識不足とか、そのように言われても仕方ないと思われ、質問としての発言も、1分間というのは無理でしょう。具体的な例を挙げたり、複雑な問題であれば少なくとも3~4分は必要でしょう。質問1分間、回答1分間としても、質疑応答(1)(2)を合わせても30項目。当日は10人から15人の間だけでしょうか。	
配布された資料も、会場で指摘されたように、一般人に、わかりやすく説明しようという配慮がほとんど感じられません。	
問題によっては、見解の異なる専門家に、それぞれ説明してもらうような工夫も必要ではないでしょうか。	
原子力問題では、賛成派・慎重派(実際は反対派)の住民のパネルディスカッション、推進派・慎重派の学者・専門家の意見発表もありました。「やらせ質問・意見発表」もあったようですが、これは許すことができません。	
再稼働を急いでいる電力会社に合わせるのではなく、必要ならば十分に時間をかけて、経路・経路の分離の問題、電力の自由化と原発事故の処理費や廃炉費用を送電費に上乗せすることの是非なども、関連事項として、説明・質疑・討論をすべきだと思います。自治体の事前同意の問題もありました。* 知事は、意見用紙を全て、直接、読んでください。お願いします。	

会場名に○をつけてください⇒

唐津・武雄・佐賀・伊万里・鳥栖

